

港北の消防

第66号

令和4年4月1日

編集

横浜市港北消防団

(港北消防署内)

交通事故防止訓練

積載車の運用に際して、機関員と乗車員の意思の疎通を図るため、コメンタリードライバ、車両諸元および車両誘導訓練を菊名ドライビングスクールで実施しました。



十月十九日から十月二十七日まで合計四回平日夜間に実施し、各自あいにく雨天の中で訓練を行い、晴天時と比べて悪条件の中、よりの実践的な訓練に参加者は臨みました。訓練は三つのコースに分かれ順次実施しました。

まず、コメンタリードライバは機関員と班長を含めた乗車員の間で、積載車の運行における様々な路上の変化を情報共有することにより交通障害を未然に回避するとともに交通事故発生リスクを軽減させることを事務局の係員が同乗して注意等を伝えました。

次に積載車に全員乗車し、自転車やセーフティコーンを活用し、車両からの死角を体感することにより、走行中の左折時巻き込みやオーバークロスによるガードレール等の接触を避けることを目的としました。

最後に車両誘導訓練を実施するにあたり、サイドミラーやバックモニターを布袋で目隠しを施し、機関員が窓から後方確認を行わず、車外の誘導員の合図のみにより車庫入れを行いました。この訓練は誘導員の的確な指示を機関員に出すことにより機関員

の目となることの重要性を再認識することが出来たと思います。

各訓練を通じて各団員から仮設のパイロン等を用いたものよりも、ドライビングスクールを活用した訓練を行うことにより、より路上に運用に近い体験を行うことが出来たという話を聞きました。

この訓練を行うことに際し、菊名ドライビングスクールのご好意により訓練会場をご提供いただいたことに書面にてお礼申し上げます。

機関科講習に参加して

第二分団 第二班 近藤 元悟

十二月四日、浅間神社に隣接する港北区防災広場にて機関科講習会が実施されました。午前中は中山消防団係長による消防車両等の安全運航及び可搬式ポンプ取扱に関する講義、午後は講義内容に基づいた実地訓練を行いました。

講義においては、特に積載車両運転時の心構えや死角の把握について説明が行われました。積載車は一般的な乗用車と異なるため、必ず事前に確認し死角の範囲を理解するとともに、乗車員全員で機関員の死角を補充しなければならぬ事を学び、コメンタリードライバの重要性を理解しました。また可搬式ポンプの取り扱いについては、ポンプの基礎知識とトリチェリの真空実験を通して給水の仕組みを学びました。

実地訓練に於いては、広場に三角コーンでクランクやS字・V字カーブが再現され、実際に二人一組となり積載車を運転しました。コーンが積載車の幅ギリギリに置かれていたこともあり何度も切り返ししながら運転でしたが、同乗者とのコメンタリードライバで死角を補充しながら無事訓練を終了することが出来ました。可搬式ポンプの取り扱いでは、始動から



放水、停止までの一連の動作を実施し、講義で学んだ内容の理解を深めました。今回の講習で多くの技能を学びましたので、この技能を今後の消防団活動に活かして行くとともに、ひいては消防団活動が地域防災の一助になればと思っております。

機関員講習受講の感想

第六分団 第七班 大倉 丈士

講習の内容は、学科・走行・ポンプの操作等です。

学科では、教習所で学んだ懐かしい内容を含め、緊急車両運行の基本・交通事故発生時の対応・車両誘導等を学びました。緊急自動車の要件の一つに「運転中のもの」とあるため駐車中の消防車両は緊急車両ではなくなることや、緊急走行時の一時停止義務免除の特例が認められているが一時停止を徹底する意味を知り大変勉強になりました。

続いて積載車の走行です。

「お父さん、信号で止まっている消防車に敬礼したらね、僕にも敬礼してくれたんだよ!」と嬉しそうに話す息子。これが消防団へ入団するきっかけとなりました。

この講習を受講すれば、いよいよ積載車の運転ができるのか。普段運転している車より大きいので緊張しました。実際の走行では、ポールに接触したりハンドルを切るタイミングが合わず、何度かストップしてしまいました。久しぶりのマニュアル車で不安しかなかったのですが、ご指導により乗り切ることができました。また、誘導のポイント等はわかり易かったです。

最後はポンプの操作です。何度か訓練に参加していましたが、忘れてしまっていることが多く毎回初心者のように教わりながら操作しています。今後は積極的に訓練に参加し、地域の役に立てるよう頑張ります。

令和四年

港北区出初式動画撮影

新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和四年港北区消防出初式が表彰式のみとなったことから、出初式典内で消防団消防署の活動を映像で紹介することになり、区内各所で撮影を行いました。



令和三年十二月二十一日第一、第三、第六、第七分団計十班の積載車が集結し、車両分列行進および一斉放水を行いました。

指揮者の号令により敬礼の後、一斉に積載車に乗り込み、赤色灯を点灯、順次出場し勇壮な姿を映像に収めることとなりました。場面を転換し、黒色の防火服を身にまとった団員は、「放水はじめ」の号令により一斉に直上へ放水し、曇天の空に虹をかけるが如く、一直線に伸びあがりました。

撮影は無事に終了し、出初式当日、式典会場の港北公会堂において映像が披露され、列席者の方々の好評を得られました。現在、動画投稿サイト「YOUTUBE」において動画を公開しておりますので是非ご視聴ください。

消防団幹部候補研修を

終えて

第七分団 部長 富樫 祐彰

コロナ禍で中止が続いていた研修が、ようやく、令和三年十二月一日(水)神奈川県総合防災センターにて開催された。今回の研修テーマは、「消防団幹部候補研修」であり、私が分団の部長に昇任後、初の研修への参加となった。研修冒頭の挨拶で、過去新羽出張所長を歴任された方が登場し、懐かしさを感じるとともに嬉しさも感じる研修スタートとなった。

研修は、午前は座学で「行政と市民の係わり合いについて」をテーマに、午後は「コンディショニング(身体のトレーニング)」についてといったテーマで行われた。

午前の研修では、主に災害状況から見る「減災」「自助・共助・公助」の課題点について過去の災害事例を取り上げ、そこでの課題を掘り下げて考えるという内容であった。

私は、町内会の副会長も担っており、最近地域との関りが希薄でも快適に暮らせる環境が整っているため、町内会・子ども会へ加入する人が年々減少していることが喫緊の課題であると捉えている。そのため、まずは町内会役員・理事の方々に関心を持ってもらうことを目的に、私が消防団活動で入手した情報を出発点としてわかりやすく伝えることを心掛け、情報発信に努めている。具体的には、プロジェクトを使っての防災に関する情報の共有化、「横浜市防災センター」での団体研修の実施等である。このような取り組みを継続的に進めていくことが、一人でも多くの市民に防災への関心を持ってもらうことに繋がり、ひいては消防団活動に興味を持ち、消防団に加入してもらえれば嬉しいだろうという考えを信じて日々活動している。

午後は一転して、元消防学校教官「鎌田修広氏」による「コンディショニングを整えるための「身体」のトレーニング」というテーマを中心し、過酷なストレッチを行った。私がストレッチを行う前に学んだことで一番興味を持ったことは、健康寿命で一番大事なのは、「地域での自分の役割・居場所」を作ることだった。

併せて、肉体的な「睡眠」「食事」「運動」が大事であることは分かっていたものの、特に「睡眠」が一番大事であるということを実例的な事例(ここでは書けない内容ではあるが)で紹介されて驚かされた。

一方、メンタル面でもとても重要なことであるが、脳が快(不快)を感じると筋肉にまで影響を及ぼすということだ。具体的には、二人一組となり「過去に自分が快(不快)に感じたことを頭にイメージした後相互で引っ張り合った結果、力の出方が全く異なった。人は脳で快(不快)を感じると、より力が出て、不快なことを感じると力が出ないということを実験して学ぶことができた。

さらに、身体を動かしていく上で最も大事なことは「血流」であるということだ。このことも様々なストレッチを実施すること

で体験することが出来た。研修に参加した人を見回すと周りから身体が軋む音が聞こえてくるようであった(笑)。しかしながら、ストレッチを終えた後、適度な疲労感が残り、とても有益な内容だった。

最後に、私が所属している班が今年ポンプ操法に出場するので、研修で学んだ内容を取り入れ、怪我入ゼロにしたいと思っております。団でも共有して行きたいと考えています。

菊名北町内会

スタンドパイプ式初期消火器具

取扱い訓練

第三分団 第三班 団員 福地 茂

昨年十二月十一日、クリーン大作戦という菊名北町内会の公園清掃の行事に合わせ、同町内会地域に設置されたスタンドパイプ式初期消火器具を活用し、取扱い訓練を実施しました。

スタンドパイプ式初期消火器具は大規模地震等の災害発生時に、地域住民が相互協力により初期消火活動を行うための消火器具で、横浜市消防局の補助により各町内会、自治会に配備が進められています。

訓練は我々第三分団第三班が指導を実施し、実際の消火栓を活用しマンホールの蓋を開けることからホースを巻き放水するまでの一連の作業を、多くの参加者に体験していただきました。小さなお子さんにも筒先を持っていたりなど体験、参加いただきましたが、皆さんに初めての放水訓練を楽しんでいただきたが、災害時には自らの手で消火活動を行わなければならない、ということを確認して頂きました。

当日は天候にも恵まれ多くの参加者を頂き、地域の皆さんが真剣に取り組んでいる姿が覗え、我々団員の指導にも熱が入りました。この機会に地域の皆さんには、近くに住む同じ住民である我々消防団員の存在や、日頃の活動内容を知っていただくことができたと思います。また、なによりも地域の皆様に防災意識の高揚を図ることができ、たいへん有意義な訓練となったと思います。



日吉アピタテラス救命体験

第四分団 三班 団員 横溝 清和
 会場準備をしていると、五、六組の親子が列を作っていました。

開場が始まると、子どもたち数名が防火服の前で立ち止まり、「この消防士さんの洋服を着てみる？」と声を掛けると、「コック」となりました。

着替えが済み会場内に進むと目の前にはミニチュアの消防車が、消防車の運転席座り、ハンドルを握って出動準備完了。団員が「敬礼をするよ、ちびっこ消防士さんも敬礼を返してよ」とも勇ましい姿が見られました。

その後保護者の方メソで撮影され任務完了していました。

救命体験では、参加者が途切れないほどの大盛況。保護者の方々と一緒に来られたお子さんもAEDの使い方や心肺蘇生法を真剣に取り組まれている姿がみられました。一人でも多くの人が知識を得ることで救える命も増えるであろうと実感できる一日となりました。



市長激励巡視

および分団激励巡視

令和三年十二月二十八日、山中横浜市長就任後、初めての激励巡視を港北区が他署に先駆け最初に受領することになりました。

当日は港北区役所会議室を会場に設定し、飯田港北消防団長、鶴澤港北区長、吉田港北消防署長をはじめ、港北消防団本部各分団長が列席し、山中市長を迎え入れました。

山中市長の新型コロナウイルス感染症対策をはじめとした様々な施策に対する思いを列席者に伝えるとともに、地域防災の要として消防団への期待の高さを感じました。

市長を送り出した後、飯田団長、鶴澤区長、吉田署長をはじめ消防団本部により、各分団に対して激励巡視を行いました。

昨年は市長メッセージを、集結した分団長のみへの伝達にとどまりましたが、二年ぶりの分団激励となりました。

感染症予防対策を徹底したなか鶴澤区長の激励が行われ、各団員の活動の士気を高め、年末年始の火災警戒に対する心構えを団員一人ひとりが持つことができました。



資機材取扱訓練

第八分団 第三班 班長 森藤 佳子

一月三十日に八分団の資機材訓練に参加しました。例年は港北消防署内で行われるのですが、コロナ感染防止対策のため屋外の港北防災広場で全員マスクを着用し、実施されました。

訓練内容は、車両誘導訓練、ホース取扱訓練、可搬式ポンプ取扱訓練の三項目でした。

特に車両誘導訓練は、私は今回が初めてでしたが、「車両誘導要項」のテキストがあり、誘導する時の立ち位置、大きな声ではっきり合図すること、積載車に同乗した時には窓を開け、周囲を確認する等、図を見ながら説明を受け、訓練にはいることが出来たので良かったです。しかし、実際に動いてみると、大きな声を出しているつもりでも機関員に聞こえていなかったり、合図が遅くなったりと、大きな積載車を誘導することは大変でした。是非また、車両誘



導訓練の機会を作っていたかと思いましたが、次のホース取扱訓練では、ホースの延ばし方や撤収、搬送の訓練を、小型ポンプ取扱訓練ではエンジンを始動し、送水までの操作を行いました。

最後は小型ポンプを始動させ、ホースを繋ぎ、放水訓練を行いました。

コロナ禍で思うように活動が出来ない中、個人でも感染防止に気をつけながら、有意義な訓練を受けることが出来ました。

訓練を準備・指導していただいた二分団の方々、消防団係の方々、ありがとうございました。

小机小学校消防団出前授業

第一分団 第三班 団員 神本 竜夫

令和四年二月一日(火)に小机小学校にて消防団出前授業を開催しました。

これは「小机小おやじの会」の活動等を通して日頃より交流のある小学校の先生から、「生徒が消防小屋や消防団に興味を持っているので話を聞く機会を設けられないか。」という相談から始まったものです。

当日は、平日の日中にもかかわらず、第一分団と第八分団から総勢十名が参加しました。

企画当初は消防小屋見学も予定していましたが、オミクロン株による感染拡大の終息が見通せず、密な状況を避けるために断念。

校庭に『質問コーナー』『積載車コーナー』の二つを距離おいて設け、クラス単位で複数回に分けて実施することで各回の参加人数を三十人未満に抑え密にならないよう配慮するなど、感染拡大防止に努めました。



『積載車コーナー』では、小型可搬式ポンプや発電機、ホースカーなど、搭載している機材を降ろし、自由に見学出来るよう展示。普段見ることのない機材に目を輝かせて興味を示し、「これは何?」「どうやって使うの?」等々、質問攻めにされていました。

『質問コーナー』でも、「どんな活動をしているのか?」「普段はどんな仕事をしているのか?」といった事を始め、様々なことを質問されましたが、地域防災に興味を持っていくことが伝わってきました。

「消防団に入りたと思う人は?」という問いかけに手を挙げてくれた生徒が何人もいたので、将来の中から消防団に入団してくれる子供たちが現れことを期待しています。

遠距離送水訓練

第二分団 第二班 班長 望月 昌秀

二月六日横浜市交通局新羽車庫基地に於いて、港北消防団と港北消防隊の連携による遠距離送水訓練を行いました。

訓練内容は、消防車両が大型簡易水槽より放水活動、

消防隊の積載水による即消活動



り給水した水を別車両へ送水し(車両間は六十五ミリホース十百ミリホース十六五ミリホース)更にそこから簡易水槽へ送水。簡易水槽を水利とし、各消防団の可搬式ポンプ三連(ポンプ間は六十五ミリホース三本結合)と六連による二通りの送水です。各分団のポンプ操作に於いては、入水圧が減圧していない事を確認し、送水圧を調整しながら目標地点への放水を無事完了させました。

今後想定しうる大規模災害発生時、木造密集地域等の延焼拡大に対応する為、各分団と消防隊の協力でおよそ三百メートルの送水が可能となり、改めてその連携効果を知る訓練が出来ました。

署・団連携訓練

令和四年二月十九日、港北防災広場において消防団・消防隊の連携訓練を実施しました。

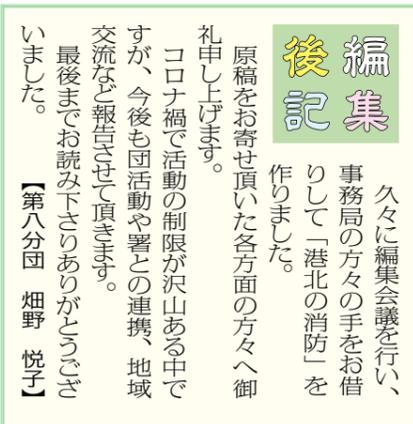
訓練の目的は、通常の火災現場に留まらず、大規模災害が発生した際、円滑な連携活動を行うため、双方の顔の見える関係を構築するため開催しました。

訓練当日は、午前を第一分団から第四分団、午後を第五分団から第七分団の各代表班が参加しました。

午前、午後ともに展示訓練を行った後、各班が訓練を継続しました。

訓練の想定は中継放水活動、

消防隊の積載水による即消活動



②消防団が後着し、可搬式ポンプを活用し消防隊に中継送水
 ③消防隊からホース延長した後、消防隊とともに放水
 以上の活動で火災を鎮圧させるものです。実施班以外の班は活動を見取り、各団員の動きを習熟し、反復訓練を実施する重要性を認識するとともに、連携活動の取り組みの大切さを消防団・消防隊双方が再認識できたという声を聞き、今後の各種訓練の実施に対して手応えを感じました。



港北区内の火災情報

令和4年3月20日(日)現在

火災発生状況			
年別	令和4年	令和3年	増△減
件数	11	16	△5
建物	9	10	△1
林野	0	0	0
車両	0	0	0
船舶	0	0	0
航空機	0	0	0
その他	2	6	△4
焼損床面積	48	977	△929
死者	0	3	△3
焼死	0	3	△3
放火自殺	0	0	0
負傷	2	5	△3

主な出火原因			
年別	令和4年	令和3年	増△減
1 たばこ	4	5	△1
2 電気機器	3	2	1
3 ストープ	1	1	0
4 放火(疑い含む)	1	2	△1
5 その他	1	0	1

編集後記

原稿をお寄せ頂いた各方面の方々へ御礼申し上げます。

コロナ禍で活動の制限が沢山ある中で、今後も団活動や署との連携、地域交流などを報告させて頂きます。最後までお読み下さりありがとうございました。

第22期編集委員

- | | |
|------|--------------|
| 本 部 | 鈴木 基祥 (編集顧問) |
| 本 部 | 齋藤 信之 (編集委員) |
| 第一分団 | 窪倉 敏 |
| 第二分団 | 峯岸 義孝 |
| 第三分団 | 小泉 守 |
| 第四分団 | 鈴木 智 |
| 第五分団 | 酒井 誠 |
| 第六分団 | 長瀬 一夫 |
| 第七分団 | 西山 裕一 |
| 第八分団 | 畑野 悦子 |